

船越漁港（愛媛県愛南町）

●地域の特徴

愛南町では、海業グランドデザインとして「愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト」を掲げており、漁港内に設置した棧橋付きの筏を活用し、駆除を目的として採取したガンガゼにブロッコリーと河内晩柑の廃棄分を給餌・蓄養することによって身質を改善させるウニッコリーの食用化試験事業を実施している。

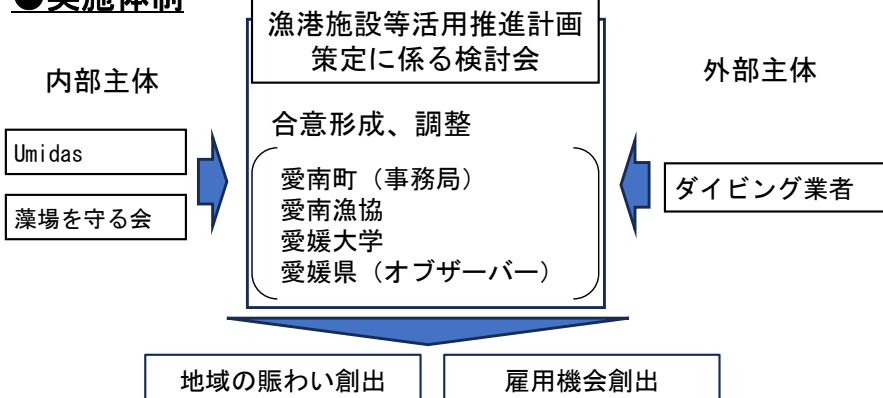
●取組に至った背景

船越漁港では、愛南町が平成30年からウニッコリーの畜養をしており、町外からの観光客やツアー客を対象としたウニッコリーの蓄養・殻剥き体験を実施している。当ウニッコリー事業を継続的なコンテンツとして維持・発展するために、漁港施設等活用事業を活用する検討を行うこととなった。

●取組の概要

- ・活用類型：養殖・体験
- ・立地特性：地方・過疎地
- ・施設の状況：遊休施設を活用
- ・活用施設：養殖筏及び棧橋・水域
- ・取組内容：ウニッコリーの畜養・体験プログラム等の企画・運営
養殖筏及び棧橋の設置・運営

●実施体制



●活用推進計画の概要

- ・計画策定（予定）日：令和9年度
- ・実施（予定）期間：30年間
- ・漁港管理者：愛南町
- ・事業目的：交流促進
- ・事業概要：ウニッコリーを畜養し、見学・体験プログラム等の事業を展開することで、交流促進につなげ、地域の賑わい創出や地域の雇用機会の確保を図る。

位置図



船越漁港

出典：地図・空中写真閲覧サービス（国土地理院）



畜養イメージ



出典：愛南町役場作成

体験イメージ



見学イメージ



期待される成果・効果（直販・食堂事業）

（定量的効果）
体験事業の試算 年間体験者数：120人（10人/2回/6ヶ月間） 総売上：48万円

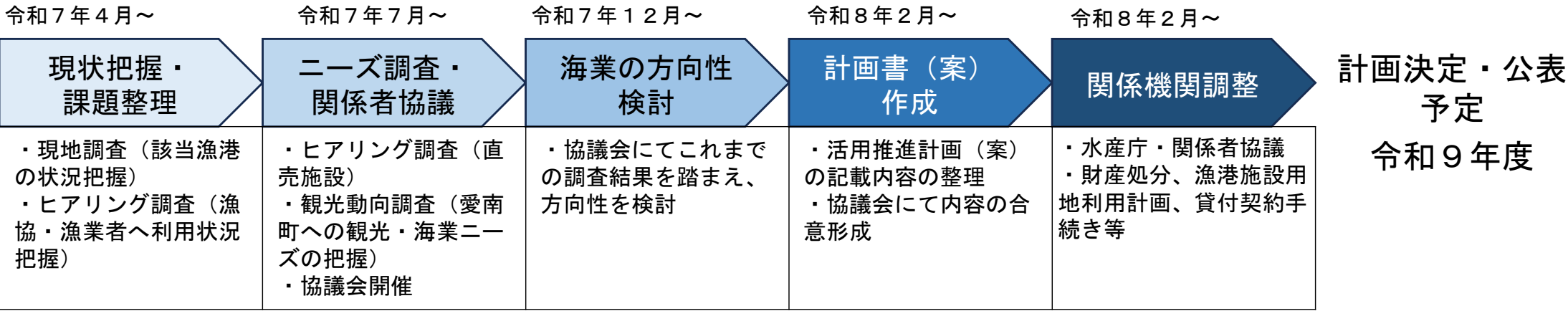
（定性的効果）
・地域の賑わい創出、観光地として魅力の増大、環境教育に対する取組姿勢の発信

船越漁港（愛媛県愛南町）

●参考情報

- ・水産庁 漁港施設等活用事業の推進に関する手引き（案）
- ・先行実施されている漁港における「活用推進計画」や実践内容

●活用推進計画策定のプロセス



●合意形成・関係者調整

- ・関係者として、愛南町、愛南漁業協同組合、Umidas、藻場を守る会、愛媛大学、愛媛県、ダイビング業者など幅広い主体が参画した。
- ・2回（7月・12月）の愛南町海業推進会議を開催した後に、令和8年2月には漁港施設等活用推進計画策定に係る検討会を開催し、継続的な意見交換を実施した。
- ・検討会では、漁港利用者へのヒアリング調査結果を踏まえて漁港利用のゾーニング案を作成し、関係者間の利害調整について検討し、広域的な水域の一部を海業にて活用することについては合意を得た。既存の養殖筏及び棧橋を利用する場合は、今後ウニッコリー体験の参加者が増加する可能性を踏まえ、愛南町や愛媛大学から安全面において課題が浮上したほか、現所有者である愛媛大学と使用頻度や運営ルール等の調整が必須である。

●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- ・活用推進計画策定のため、サウンディング調査を実施した結果、来訪者の安全確保やウニッコリーの生産環境（採捕手法や人員体制等）、事業収支、占用期間等において課題があり、令和8年度にて計画を見直し、修正を行う必要があった。
- ・活用推進計画の策定には至っておらず、令和8年度は愛南町所有の浮棧橋を活用したウニッコリーの畜養及び体験事業を検討する予定である。また、当該事業を組み込んだ有償モニターツアーを実施し、旅行会社等の評価や意見を踏まえながら、事業内容及び活用推進計画の見直しを進める予定である。

●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・海業を検討する際は、事業内容を先に決めるのではなく、漁業者、施設所有者、大学、民間事業者などの関係者を早期に交え、それぞれの役割や利用意向を共有・整理することが重要である。
- ・漁港施設や筏・棧橋を活用する場合は、利用可能かどうかだけでなく、所有者・管理者、利用目的、使用頻度、運営ルール、安全管理体制などを事前に確認しておくことが重要である。